

GIGAスクール構想のもとでの 高等学校保健体育科の指導について

GIGAスクール構想のもとでの保健体育科の指導において ICTを活用する際のポイント

新学習指導要領とICT活用の関係

(2) 各科目の指導に当たっては，その特性を踏まえ，必要に応じて，コンピュータや情報通信ネットワークなどを適切に活用し，学習の効果を高めるよう配慮すること。

[高等学校学習指導要領(平成30年告示) 保健体育]

例えば，科目体育においては，学習に必要な情報の収集やデータの管理・分析，課題の発見や解決方法の選択などにおけるICTの活用が考えられる。また，科目保健においては，健康情報の収集，健康課題の発見や解決方法の選択における情報通信ネットワーク等の活用などが考えられる。

なお，運動の実践では，補助的手段として活用するとともに，効果的なソフトやプログラムの活用を図るなど，**活動そのものの低下を招かないよう留意することが大切**である。

また，情報機器の使用と健康との関わりについて取り扱うことにも配慮することが大切である。 [高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 保健体育編 体育編]

GIGAスクール構想のもとでの保健体育科の指導において ICTを活用する際のポイント

保健体育科で育成を目指す資質・能力と1人1台のICT端末の活用

保健体育科では、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続することを目指し、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの資質・能力の育成を重視している。これらの資質・能力を育成する上で、GIGAスクール構想のもとでの1人1台のICT端末の活用に当たり、以下のような活用場面と活用の効果が考えられる。

知識及び技能の習得の場面

技ごとの動画を繰り返し視聴したり、スローで再生したりする。

知識の理解が深まる。

AEDの使用手順を動画で再確認する。

撮影した自分の取組動画を視聴する。

修正点を意識して、再度実施することで、技能が確実に習得される。



思考力、判断力、表現力等の育成の場面

各自の視点で、ゲームの撮影動画を確認することで、チームの特徴に応じた作戦を考える。

各自で考えたチームの特徴に応じた作戦をチーム内で話し合う。

思考力、判断力、表現力等の育成が促進される。



学びに向かう力、人間性等の涵養の場面

過去の自分の記録や動きを確認する。

自己の変容を確認する。

愛好的な態度の涵養につながる。



※上記の例はあくまで一例であり、今後、更なる効果的な活用が期待される。

GIGAスクール構想のもとでの保健体育科の指導において ICTを活用する際のポイント

課題とICT活用による生徒の期待できる姿

【課題】

- * 運動する子供とそうでない子供の二極化傾向
- * 運動時間の減少に伴う体力の低下
- * 健康課題を発見し、主体的に課題解決に取り組む学習が不十分

【保健体育の授業において三つの資質・能力を育成する中で、ICTを効果的に活用することで、以下のような更なる効果が期待できる】

知識及び技能の習得	思考力, 判断力, 表現力等の育成	学びに向かう力, 人間性等の涵養
運動の行い方の理解 技能の習得	自己や仲間の課題の発見 練習方法の工夫・改善	仲間との教え合いの充実 自己の変容の確認

【その結果, 以下のような生徒の姿が期待できる】

- 苦手だった運動ができるようになり, 運動が好きになる。
- 運動することへの意欲が高まり, 積極的に運動するようになる。
- 自己の健康課題に主体的に取り組むようになる。

高等学校・入学年次・保健体育・器械運動（マット運動）①

育成を目指す資質・能力

（1）知識及び技能

次の運動について、技ができる楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方、運動観察の方法、体力の高め方などを理解するとともに、自己に適した技で演技すること。

ア マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技すること。

（2）思考力、判断力、表現力等

技などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。

（3）学びに向かう力、人間性等

器械運動に自主的に取り組むとともに、よい演技を讃えようとする、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなど、健康・安全を確保すること。

ICT活用のポイント

- ・ICT端末の活用により、各自が技能の習得状況を的確に把握することで個別最適な学びにつなげる。
- ・撮影した動画を仲間同士で確認して助言したりすることなどを通じて、課題解決に向けた協働的な学びを実現する。

事例の概要

導入

- クラウド上に保存されている前時の自己の動きと模範動画とを対比することで、自己の学習の実現状況及び個別の課題を把握する。

展開

- 個人での課題把握を踏まえ、課題解決に向けた個別最適な学びの充実を図る。
- 課題解決の場面において、生徒同士が撮影した動画を活用し、仲間の課題や出来映えを伝えるなどのことを通じて、協働的な学びの充実を図る。

まとめ

- 前時に撮影した動画と本時に撮影した動画を比較し、自己の変容を確認することで、次時以降の主体的な学びに結び付ける。

授業終了後

- 教師は、クラウド上に保存された生徒の自己評価シートや学習カードなどにコメントを記入するとともに、生徒の記述内容を分析し、次時以降の指導改善に生かす。

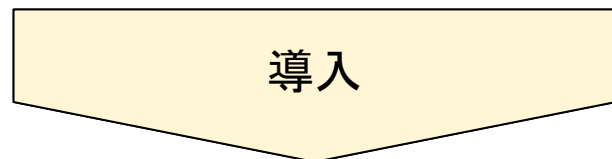
育成を目指す資質・能力

- (1) 知識及び技能
応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができること。また、心肺蘇生法などを行うこと。
- (2) 思考力, 判断力, 表現力等
傷害の防止について、危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現すること。
- (3) 学びに向かう力, 人間性等
応急手当の意義、応急手当の実際についての学習に自主的に取り組もうとすること。

ICT活用のポイント

- ・ICT端末により、各自が知識及び技能の習得状況を的確に把握することで個別最適な学びにつなげる。
- ・撮影した動画を仲間同士で確認したり、手順やポイントを助言し合ったりすることを通じて、課題解決に向けた協働的な学びを実現する。

事例の概要



- 応急手当の手順や留意点などについて、タブレット等を活用してその知識の習得状況を把握し、個別の課題を確認する。



- 個人の課題把握を踏まえ、課題解決に向けた個別最適な学びの充実を図る。
- 課題解決の場面において、生徒同士が撮影した動画を活用し、仲間の課題や出来映えを伝えるなどのことを通じて、協働的な学びの充実を図る。



- 本時に撮影した動画から、知識及び技能の習得状況を確認することで、次時以降の主体的な学びに結び付ける。



- 教師は、クラウド上に保存された生徒の自己評価シートや学習カードなどにコメントを記入するとともに、生徒の記述内容を分析し、次時以降の指導改善に生かす。

高等学校・入学年次・保健体育（応急手当の意義と実際）②

～撮影した映像から、自己や仲間の課題を把握し、協働的な学びを通して深い学びにつなげる～

【ICT活用のポイント①】



【ICT活用のポイント②】



【ICT活用のポイント③】



【ICT端末、クラウドの活用のメリット】

【生徒の支援】

- 授業導入時にクラウドに保存されている心肺蘇生法の動画を確認し、各自が課題を把握した上で個別の課題に応じた方法で行う。
- 同じグループの仲間同士で実習の様子を撮影し、模範動画の動き方と仲間の動きを比較しながら、仲間の課題や出来映えを伝える。
- 本時に撮影した動画を友達同士で比較し、本時の目標の達成状況を確認するとともに
- 実習を通して気付いた新たな課題等について共有し、再度取り組むことにより課題の解決を図る。
- クラウド内に保存されている自己・相互評価シートや学習カードなどのファイルを開いて全体で共有しながら総括をする。

【教師の支援】

- ◆ クラウド上にある個々の生徒の記録を確認することで、教師が生徒の知識や技能の習得状況などを把握することができ授業改善につなげられる。
- ◆ 自己・相互評価シートや学習カードの内容をクラウド上に一括管理することで、単元や年間の評価を総括する際の業務の効率化を図ることができる。

【活用したソフトや機能】 動画撮影機能、学習支援システム